

# 産地パワーアップ事業の工夫事例

(群馬県)

## 取組の概要

取組の概要 : パイプハウスや農業用機械導入により、生産量を増やし、加工業務用野菜産地の強化を図る。  
計画作成主体 : 板倉町総合農業振興協議会  
対象品目 : レタス・キュウリ・キャベツ  
(産地面積 : 20.26ha)  
主な取組主体 : 認定農業者 10名  
成果目標 : 総販売額の10%以上増加  
助成金の活用 : 生産支援事業 (パイプハウス・播種機・ブームスプレーヤー等)

## ポイント

- ・実需者(食品会社)と加工業務用野菜の契約取引をしている生産者の供給力強化を図る。
- ・冬作レタス・夏作キュウリの営農体系を確立し、産地供給力を強化。
- ・契約栽培により、生産量増大が生産者の安定収入に繋がる。
- ・施設栽培(レタス・キュウリ)だけだったが、新たに露地栽培(レタス・キャベツ)で面積を拡大し、収量増を図った。

## 産地の現状と目標

〈現状:27年度〉

作付面積 : 5.34ha  
販売額 : 29,444千円

〈目標:31年度〉

作付面積 : 20.26ha  
販売額 : 165,840千円

## 直面した課題等

- ・新設法人等であり、農地集積が課題。
  - ・米専作農家が野菜へ転換したため、栽培技術習得が課題。
  - ・夏季の栽培品目の検討。
- など

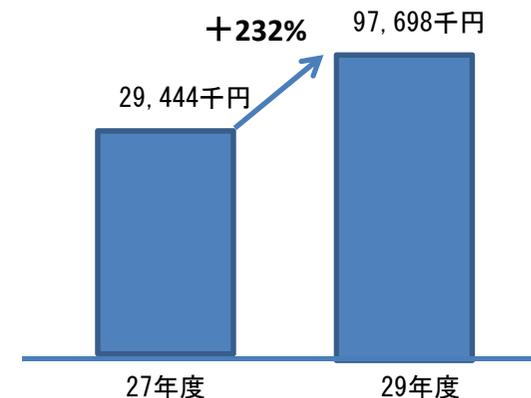
## 工夫した点

- ・産地の考え方を「食品会社と加工業務用野菜の契約取引をしている生産者」として設定した。
- ・農業委員及び農地中間管理機構と連携し、面的にまとまりのある農地を集積した。
- ・パイプハウス176棟と播種機やブームスプレーヤー等の農業用機械を一体化で整備し、地域全体での営農体系の確立、供給力の強化を図った。
- ・露地栽培(レタス・キャベツ)にも新たに取り組むことで、生産力が高まり、販売力も強化された。
- ・町・町総合農業振興協議会・JA・実需者・県がそれぞれの役割に基づき、協力して事業推進。
- ・JAや肥料会社及び実需者等が栽培技術や品種選定等の研修会を毎月開催。
- ・全国に点在する系列農場への視察研修を実施し、栽培技術向上や新技術について学んでいる。
- ・優良生産者の表彰を行い、モチベーション向上を図っている。

## 事業効果

- 営農体系の確立、栽培面積・栽培数量増大により、生産量が安定的に増加するとともに、契約栽培による安定的な収入増加にも繋がっている。
- 水稲からの転換も行われ、所得向上と経営の安定が図られた。

～レタス・キュウリ・キャベツの販売額～



## 地区の概要

